

経営計画

Growing beyond 130th

～ 永代取引によるお客さま感動満足の創造と豊かな地域社会の実現 ～

経営目標の見直しについて

2026年5月15日

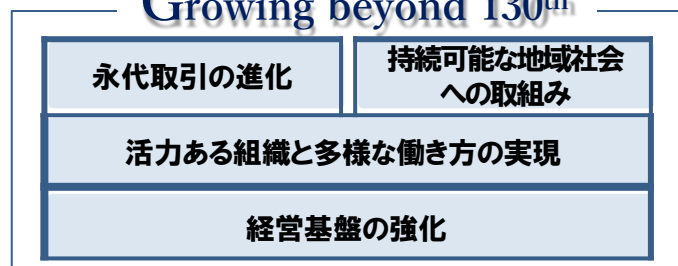


- 2023年度から開始した経営計画「Growing beyond 130th」は、2025年4月から最終3rdステージ(3年計画)にシフト
- 2025年11月に見直した経営目標を再度見直し、新たな経営目標として「当期純利益200億円以上」を設定し、さらなる収益の拡大と当行および地域の持続可能な成長の実現に取り組む

— 経営環境 —

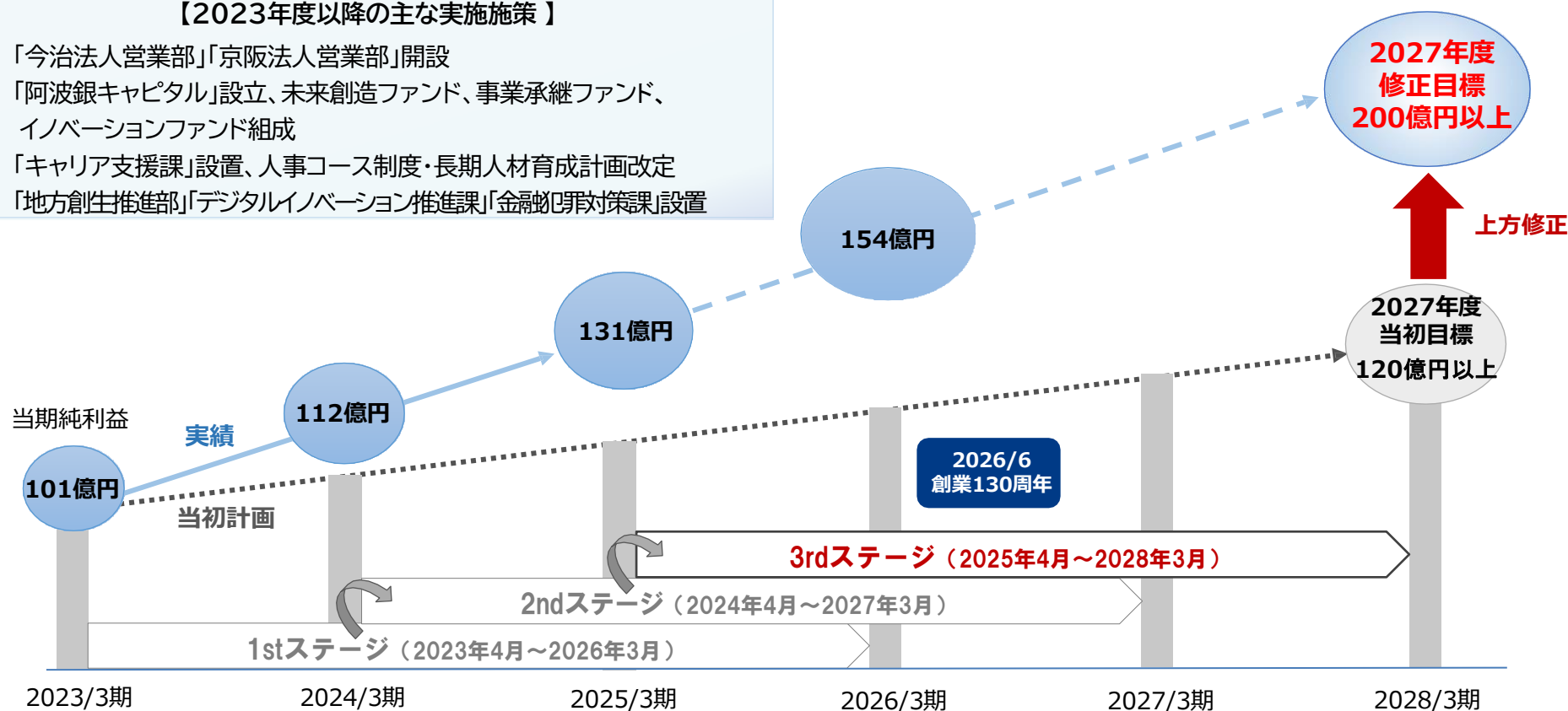
- 政策金利変更に伴う金利上昇
- 米国追加関税、物価上昇・賃上げ継続
- サイバー等システムリスクの増加
- デジタル金融サービスの台頭
- サステナビリティの推進
- 地域金融力の発揮
- 特殊詐欺等金融犯罪への対応
- AIの活用

Growing beyond 130th



【2023年度以降の主な実施施策】

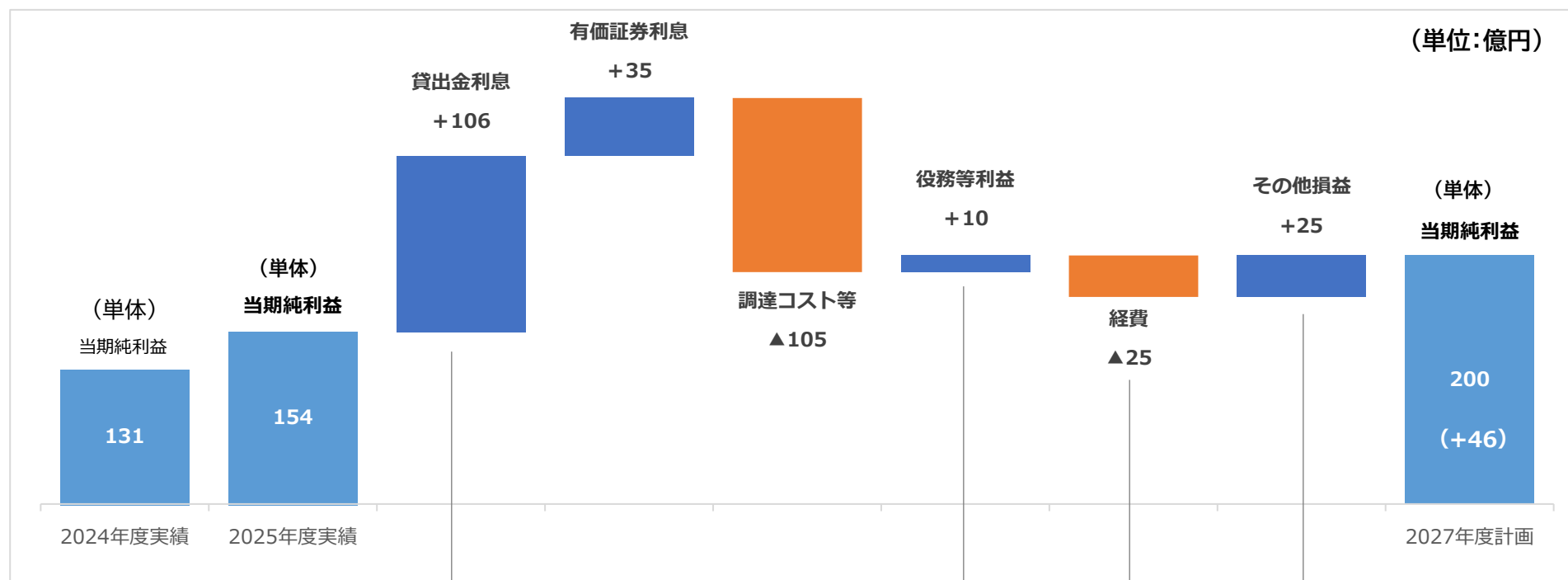
- 「今治法人営業部」「京阪法人営業部」開設
- 「阿波銀キャピタル」設立、未来創造ファンド、事業承継ファンド、イノベーションファンド組成
- 「キャリア支援課」設置、人事コース制度・長期人材育成計画改定
- 「地方創生推進部」「デジタルイノベーション推進課」「金融犯罪対策課」設置



経営目標 (単体)	2025年度実績	【見直し後】 2027年度	【見直し前】 2027年度
修正OHR	56.11%	55%未満	57%未満
コア業務純益ROA	0.57%	0.60%以上	0.55%以上
当期純利益	154億円	200億円以上	180億円以上
当期純利益ROE	4.33%	5.00%以上	5.00%以上
配当性向 (連結) ^{※1}	33.93% ^{※2}	40%以上	40%以上
ESG投融資残高	1,797億円	3,000億円	3,000億円
女性役付者比率	30.6%	30%以上	30%以上

※1 株主還元率**40%以上**(連結)を配当性向**40%以上**(連結)に見直し

※2 130周年記念配当を除く



(貸出金利息内訳)

円貨貸出金利息	+107
残高要因	+12
利回り要因	+95
外貨貸出金利息	▲1
残高要因	+2
利回り要因	▲3

(役員等利益内訳)

本業支援手数料	+7
ファイナンス	+2
事業承継・M&A	+3
ビジネスマッチング等	+2
預かり資産手数料等	+3

(経費内訳)

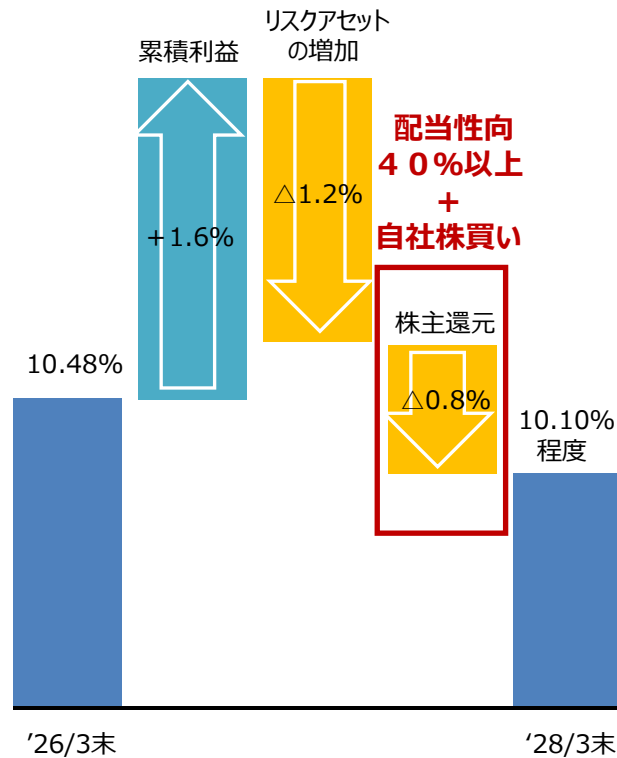
人件費(増加)	▲14
物件費(増加)	▲10
税金(増加)	▲1

(その他損益)

有価証券関係損益	+47
その他業務利益	+10
実質与信費用(増加)	▲7
税金等(増加)	▲25

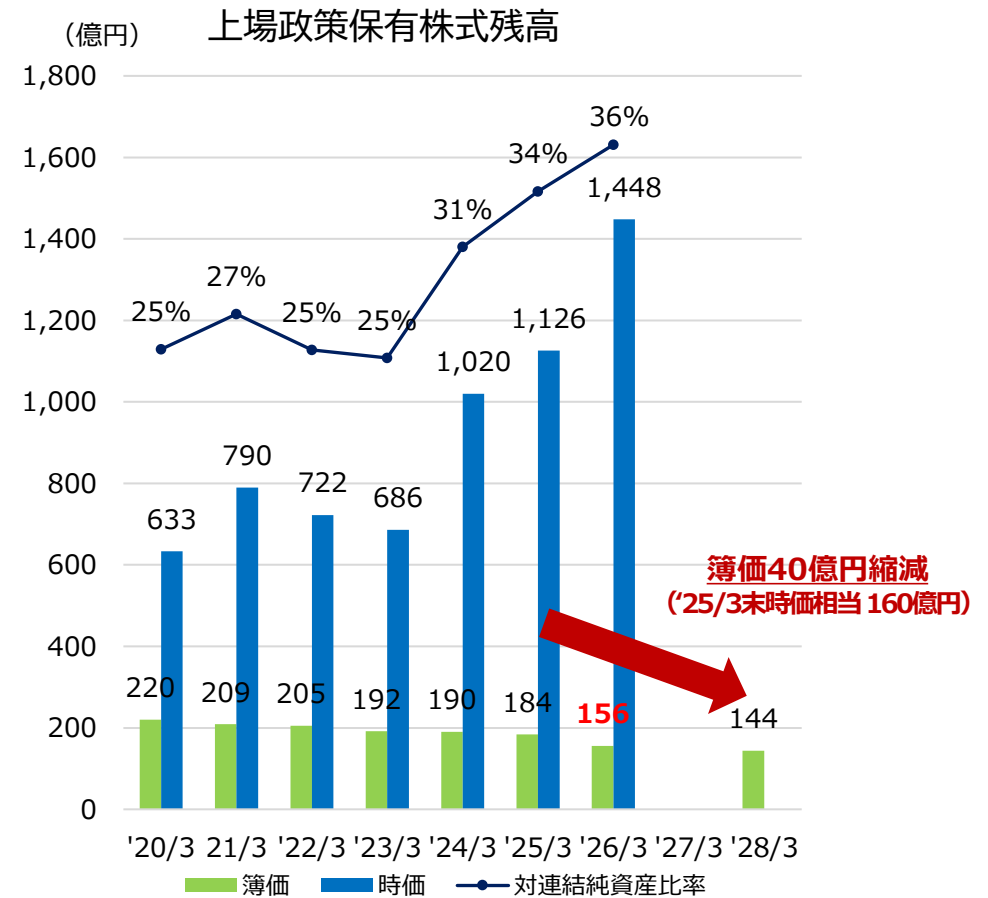
連結自己資本比率10%超を維持

キャピタルアロケーション
(連結自己資本比率)



政策保有株式の縮減を加速

2025/3比、3年間で簿価ベース40億円縮減
縮減は順調に進捗する一方、継続保有している株式の時価が大幅に拡大



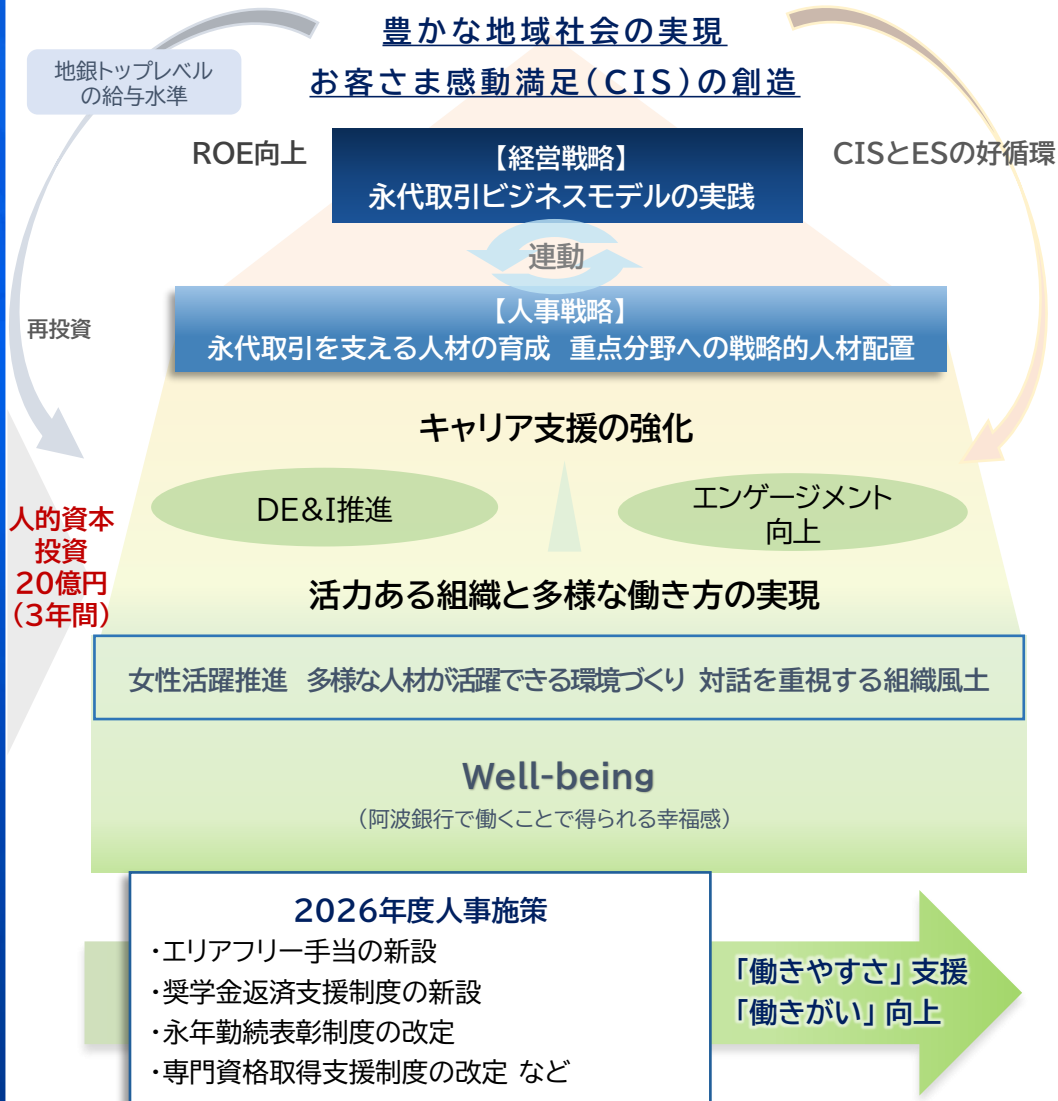
成長投資へ

人的資本投資 20億円
デジタル投資 50億円



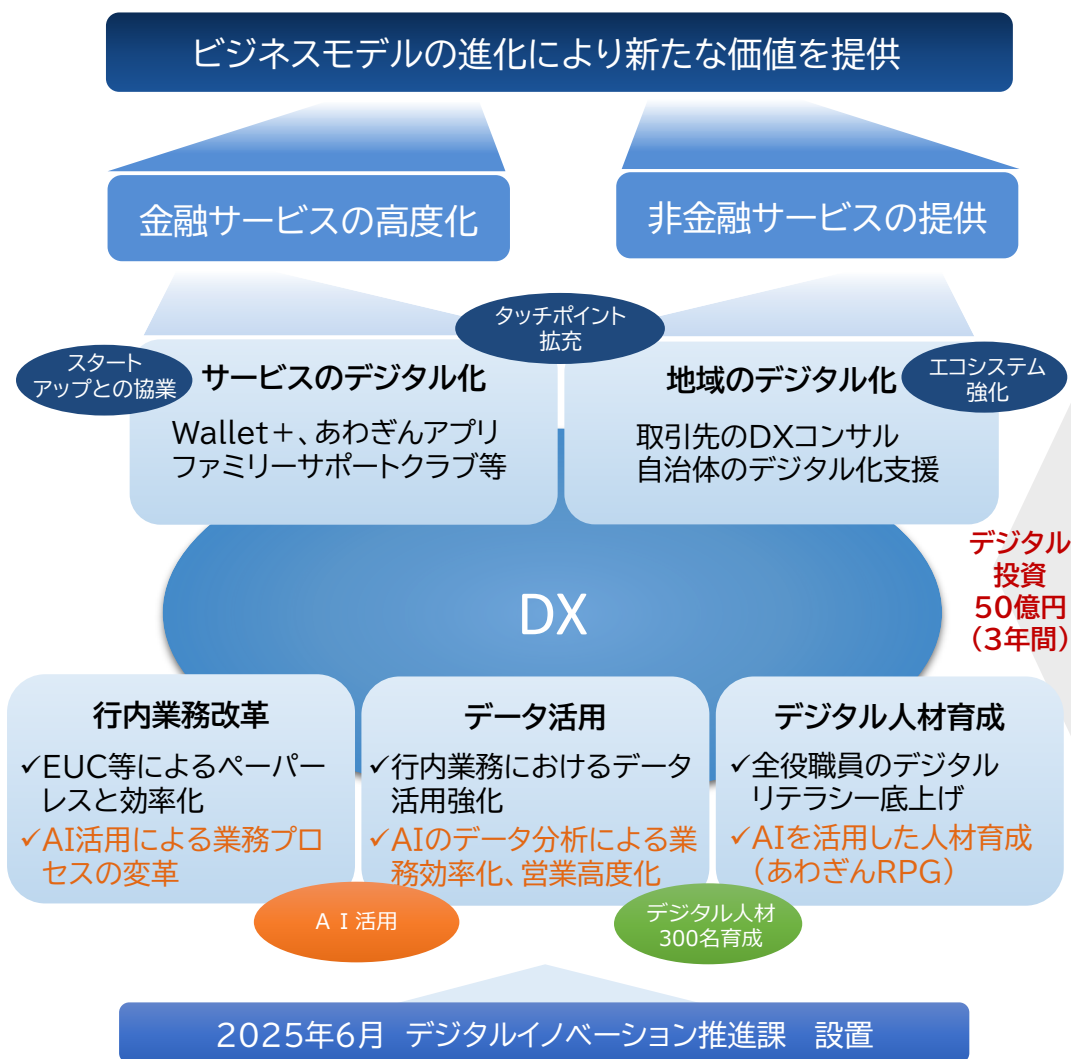
人的資本投資

人的資本経営の取組み



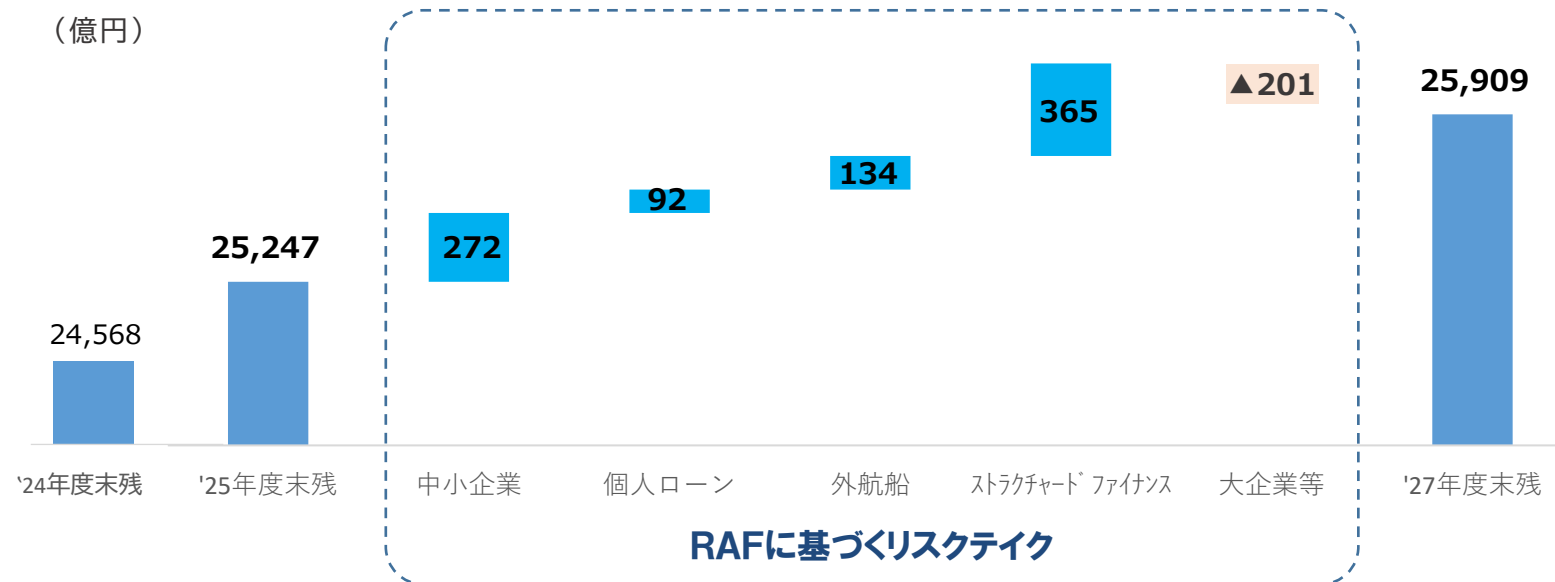
デジタル投資

DX戦略の取組み



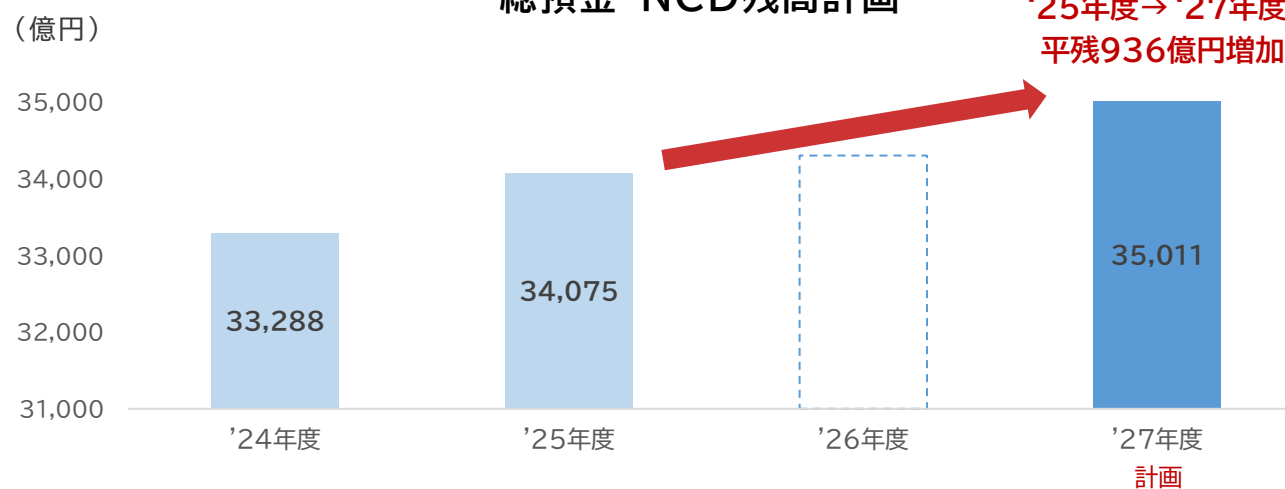
貸出金残高計画

‘25年度→‘27年度
未残662億円増加



総預金・NCD残高計画

‘25年度→‘27年度
平残936億円増加





本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、不確実性を内包するものです。
将来の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があることにご留意願います。